

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドハートかも		
○保護者評価実施期間	令和7年 2月 1日	～	令和7年 2月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19名	(回答者数)
			19名
○従業者評価実施期間	令和7年 2月 1日	～	令和7年 2月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数)
			8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 25日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたちが安心感をもって来所してくれており保護者様にも満足の評価を頂いていること	活動内容が固定化されないように職員と協議しながら決めていきます。 自由時間等でも怪我や喧嘩がなく、安全に過ごすことができるように見守りを徹底し楽しく過ごすことができるように工夫しています。	児童の個別の要望にもできるだけ応えられるように、柔軟な対応をしていることができれば、さらに満足してもらえると考える。
2	研修やスキルアップの機会が整っていること	必要があれば随時研修を実施している。 資格取得にも積極的に児童発達支援管理責任者の資格取得や強度行動障害支援者養成研修にも力を入れている。	より専門的な外部講師に依頼した研修も行っており、今後も研修の機会を確保し続けて、研修内容の充実を図るよう努める。
3	保護者の意向に沿った支援計画にて支援の内容を充実させていること	児童発達支援管理責任者を中心に関係機関や保護者様からの情報を反映した支援計画の作成に務めている。 子どもの意見を尊重して主体性を損なわないよう、最大限に配慮しながら計画の作成にあたっている。	アンケート結果を踏まえて保護者様にも支援計画は満足して頂いている。これからも保護者様と情報共有ができるように務めていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	非常時の取り組みについて	活動の一環として年2回の避難訓練等を取り入れているが保護者様に十分な情報提供ができていなかったこと。 土祝に活動が集中しており平日の対応が難しい。	利用児童や保護者様に周知するために、活動予定以外にも広報誌等で実施の報告をしていく。
2	放課後児童クラブや児童館との交流や地域の他の子どもと活動する機会について	行事への参加は行っていないが地域行事の情報は収集するように努めています。 外出先では、安全面を考慮した上で子どもたちの主体性を損なわないように最大限に配慮している。	個人情報保護の観点から、今後も慎重に検討していく。
3	保護者同士の関わり	保護者同士が顔を合わせる機会が少ないこと。 保護者同士の関わりを望んでいらっしゃる保護者の方もいる。	交流を希望していらっしゃる保護者様が参加可能な保護者会などの機会を増やしていけるかを検討する。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
チャイルドハートかも		令和7年 3月 31日				
		チェック項目		工夫している点	課題や改善すべき点	
		はい	いいえ			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		活動スペースを確保するために、活動場所を分散させている。	活動内容によっては、それ以外の児童の過ごす場所を確保してやる必要がある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	8		配置基準を順守した配置を行っている。児童指導員の有資格者のみでなく、専門的支援を行うことができる職員も配置している。	配置基準より多くの職員を配置している。今後も、児童指導員の要件も考え、有資格者のみならず、専門性を重視して他分野での職務経験を持つ職員も配置していく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		絵を用いた表示による資格支援等を通して、すべての児童に分かりやすいよう配慮をしている。	施設面のバリアフリー化までの必要はないが、階段や段差部分をテープで被う、手すりの設置などの配慮を検討していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		日々清掃を行い、常に衛生面に配慮した環境づくりを行っている。	活動の形態によっては、スペースが十分とれない時もあるので、密にならずに活動に集中できるようにグルーピングや配置の仕方を検討していく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		個別または少人数で利用することができる部屋を用意しており、必要に応じて活用させている。	今後も、必要に応じて、クールダウン用のスペースとして、個別の空間を提供していく。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8		毎日のミーティングや毎月のカンファレンスを通して、職員間で意見を交換する場を設けている。	今後も、朝礼、終礼での打ち合わせ、振り返り、月1回のカンファレンス等で改善案などについて協議し、共通認識の下で改善策を実行するようにしていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		保護者アンケートを毎年実施して、その結果を職員間で共有して必要なことは改善している。	改善できる点はすぐ実行・検証し、新たに改善策が必要な場合は協議を深め、改善策の策定を行っている。物理的に改善困難なことに関してはうまく代替できないか検討していく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		日々のミーティング、月間カンファレンスを行い、職員の意見をもとに改善すべき点は改善している。	さまざまな角度から出た意見を基に業務改善策を実施していく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8		第三者委員会を通じて、外部の意見を取り入れている。	苦情解決制度に則り、苦情受付担当者と苦情解決責任者を設置している。今後も、必要に応じて、第三者委員会による評価も受けしていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		月1回以上は全体、もしくは事業所内で研修を行い資質向上に努めている。	虐待防止委員会、感染症対策委員会等による法人全体での研修、外部研修受講者による伝達講習を実施している。外部講師の招聘も積極的に行っていく。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		全職員で支援プログラムに関して話し合いをしている。	令和7年2月末に作成を行い、ホームページ上に公表している。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8		担当者会議を通じて保護者、相談支援専門員とともに個別支援計画を作成している。	今後も、保護者からの聞き取りと、相談支援専門員との情報交換、職員からの情報をもとに、児童の発達課題を明確にした個別支援計画書の作成していく。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		担当者会議には児童発達支援管理責任者以外の職員も必ず参加している。	全職員が参加できる時間帯を調整し、議論への参加機会を増やしていきたい。また、こどもの具体的な状況やニーズに基づき、事例検討を進めていく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		更新時のみならず、毎月児童間カンファレンスを行い、課題を共有している。	今後も、カンファレンス等を通して共有していきたい。その際、新たな課題が見つかった場合は、早期に修正していく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8		FIMを用いているほか、日々の行動については終礼、朝礼時に職員間で確認を行っている。	国際基準であるFIMの評価シートを使用し、アセスメントとモニタリングを実施している。今後も、日々の変化を観察、評価していく。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		日々の支援もガイドラインに沿った活動を通じて行っている。その中で児童の適正に応じた内容へと変化を加えるよう努力している。	今後も、お子さんの支援に必要な項目を選択し、多職種でカンファレンスを行い、多角的に支援計画を検討していく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		複数の職員で立案したものを、全職員で検討をしている。	今後も、児童に合わせた外出や活動内容を常に話し合い、体験的活動を設定していく。

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		同じような活動でも、児童の成長に応じてレベルを変えている。	日々の活動内容や毎月の外出先を変え、支援を行っている。今後も、長期休みでは動物園や博物館などの地域資源を活用していく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8		児童の能力や適性を考慮して個別活動と集団活動を使い分けている。	今後も、児童発達支援管理責任者が立案した個別・集団活動の目標を達成したのか、支援記録に記載するとともに、情報を出し合い、客観性・実効性を高めるようにしていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		毎日の朝礼で打ち合わせを行い、職員全員で活動内容を共有している。	今後も、毎日必ず始業時に、また、急な変更が出た場合、送迎前や送迎後にも必要に応じて時間を取り、全職員で確認し業務にあたっていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8		毎日の終礼で職員全体で確認をして、休みの職員も引継ぎノートで確認ができるように記録をしている。	風通しの良い職場環境づくりを目指し、各職員が感じたことを何でも言える場を設定している。今後も、多角的・多面的な視点からの意見をすべて吸い上げるようにしていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		支援記録のほかに、引継ぎノートに記録をして改善できる体制をとっている。	日々支援記録を作成し、支援内容を振り返ることで支援計画に反映している。今後も継続していく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		個別支援計画の更新時に、毎回必ず行っている。	支援開始前、半年周期でモニタリングを行っている。また、必要に応じてモニタリングの実施と個別支援計画書の変更を行っている。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	8		行っている。業務日誌、連絡帳にも反映させている。	ガイドラインの基本活動の項目を反映させた上で、個別支援計画書に沿った支援を日々行っている。また、支援内容や方法を詳細に記録しファイリングしている。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定する力を育てるための支援を行っているか。	8		活動の内容や進め方に関して、児童自身が選択できるような余地を残して活動を準備している。	今後、活動プログラムにおいても、こどもたち自身が選択し得るような内容を増やしていく。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		担当者会議には、児童発達支援管理責任者の他に、その児童との関りが深い職員と複数で参加している。	基本的に管理者及び児童発達支援管理責任者が参加している。必要に応じて、児童と関わる密度が高い職員や有資格者も参加していく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8		地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関との連携を意識し、必要に応じて情報を共有するよう努めている。	子どもの状況に合わせて、必要な支援が受けられるよう関係機関との連携を増やす方向で検討していく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8		学校での送迎時をはじめ、児童に関する情報交換は適切に行っている。	ネットワーク会議や必要な場合にはケース会議に出席している。また、予約状況を学校に提出して、下校をスムーズに行えるようにしている。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8		密に連絡を取れる体制づくりに努めている。	関係機関との連携を強化し、支援計画を共有する際に意見交換を積極的に行えるようにしていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8		現在、学校を卒業する児童はいない。	今年度、該当児童がない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	8		密に連絡を取れる体制づくりに努めている。	児童発達支援事業所や相談支援専門員からの助言を受けている。また、事業所としても外部研修への参加を促し、職員間で情報を共有をしていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	8		個人情報の観点から交流の機会はない。個人情報の観点から現在は行っていない。	個人情報保護の観点から現在は行っていない。また、それを望まない保護者が多数いることも要因の一つになっている。閉鎖的な事業所にならないよう外部講師を招くなど地域に根差す事業作りに尽力していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	8		本事業所からの参加はないが、別の事業所から勉強会や研修会に参加した職員が、伝達講習会を実施している。	勉強会や研修には参加している。今後、必要に応じて自立支援協議会への参加もしていきたい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		連絡帳の他、送迎時に直接会話することを通して、毎回情報共有を行うように努めている。	保護者がより気軽に相談できる環境を整え、情報交換の機会をさらに増やしていきたい。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8		保護者会を開催して情報提供を行う機会を設けている。	家族支援の機会をより充実させ保護者の学びを深める機会の提供をしていきたい。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		契約時に重要事項説明書を用いて説明を行い、不明な点は質問を受けて理解してもらうよう努めている。	今後も、保護者にわかりやすいように丁寧に伝えていく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		契約時のみでなく、モニタリング時や日々のコミュニケーションの中で、保護者と利用者のニーズを聞く機会を作っている。	保護者会の開催だけでなく、必要に応じて、個別相談の場を設け、直接意見を聞く機会を増やしていきたい。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8		契約時や担当者会議を通じて、随時行っている。	今後も、理解、イメージがしやすいように、活動時の例を提示しながら、わかりやすいような説明を心掛けていく。

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		送迎時のみでなく、電話やメッセージでの相談に応じている。	今後も、保護者からの悩みや相談があった時には、真摯に受け止め、誠意をもって相談に応じていく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	8		年1回保護者会を開催して、保護者同士での交流をする機会を設けている。	公民館を貸し切り、事業所ごとに部屋を分けて保護者会を実施した。来年度も計画していきたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		苦情受付窓口や苦情解決責任者を設置しており、迅速に対応している。	苦情解決担当窓口と苦情解決責任者を設置しており、苦情に対しては迅速かつ丁寧な対応を心がけている。解決方法については、全職員で協議した上で、丁寧に説明し理解を得られるようにしていく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8		毎月の利用届に活動内容を記載しているほか、会報誌を発行したりして情報提供している。	今後も、わかりやすく情報を発信していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		個人情報の取り扱いについては、全職員で十分に留意して行っている。	個人情報保護については日々十分注意しながら業務にあたっている。今後も継続していく。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		必要があれば合理的配慮を行い、利用者・保護者ともに配慮を行っている。	多様なコミュニケーションツールを取り入れ、特に保護者が活用しやすい方法を積極的に検討していきたい。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		8	行事への参加は行っていないが、地域行事の情報は収集するようにしている。	個人情報保護の観点から現在には行っていない。また、それを望まない保護者が多数いることも要因の一つになっている。閉鎖的な事業所にならないよう外部講師を招くなど地域に根差す事業作りに尽力していきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		職員に対しては個人研修を行い、保護者に対しては契約時に説明を行い、マニュアルをいつでも閲覧できるようにしている。	職員に対しては、個人研修を行っている。また、緊急連絡網を作成し、事業所内に掲示している。今後も、保護者様へわかりやすいように周知していく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		計画を策定しており、法定期間内に研修を実施することで、職員の資質向上に努めている。	職員が自信を持って行動できるよう、災害対応に関する研修を通して意識を高めていきたい。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8		契約時に確認しており、その後の新たな事案に関しては個別に連絡してもらい対応している。	保護者が安心して状況を伝えられるよう、相談しやすい環境や仕組み作りを進めていきたい。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		FIMで調査している。保護者から聞いた際には、対応している。	今後も、アレルギーに関してはアセスメント時に聞き取りし、活動内でアレルギーを引き起こす可能性がある食材を使用しないようにしている。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		計画を作成し、定期的に研修を行うことで安全管理体制を整えている。	日常的な安全点検を職員全員で行い、潜在的なリスクの早期発見と対応を目指していきたい。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8		契約時に行っているほか、悪天候等による安全確保に関しても、必要に応じて行っている。	安全計画に基づく取組内容を定期的に見直し、その都度事業所に掲示して周知していきたい。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		事例が発生した場合には、速やかに統括、オーナーに報告し、事故報告書を作成して他事業所と共有し再発防止に努めている。	インシデント、アクシデントも含めてその日のうちに作成し、全職員に周知している。また、作成者は発見者、管理者が確認しファイルとしていつでも閲覧できるようにしている。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		虐待防止委員会を設置しており、研修を通じて全職員が理解できるような機会を設けている。	今後も、事例検討や虐待防止研修を実施し、研修後、評価表による自己評価を通して、日頃の児童への関わり方を検討し合い、改善すべき点は全職員で協議し、虐待行為は絶対に取らないという共通認識に立つようしていく。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8		研修を通じて全職員に3原則を周知しているが、身体拘束を行う事例はない。	3原則に沿って行いが、身体拘束した事例はない。身体拘束については説明後に保護者より同意書を頂いている。	